

事業報告

令和3年度 大分県公民館テーマ別研修会②

日時：令和3年9月10日（金）13：00～16：05

会場：野津中央公民館 大ホール 参加者：35名

<研修趣旨>

地域の防災・減災力を高めるため、最近の自然災害の実態と予防について事例に学ぶとともに実践的な知識・技術の習得を図ることにより公民館職員としての資質の向上及び相互の連携を図る。

<研修内容>

○講義：「災害を知り、地域を知り、人を知る！」

～災害リスクを知り、命を守る～

講師：大分大学防災・復興デザイン教育研究センター防災コーディネーター 板井 幸則 氏

- 1 訓練を通じて災害をイメージする。訓練後の検討会は必須。訓練に勝る備えなし。
- 2 災害は進化しているため、人の考えや行動も進化すべき。
- 3 行政主導の避難対策は限界。避難スイッチを押すのは「あなたの判断」

○演習：「避難所としての公民館の役割」

～避難所を考える～

講師：大分大学防災・復興デザイン教育研究センター防災コーディネーター 板井 幸則 氏

- 1 プライベート空間の確保：女性、高齢者、障がい者、乳幼児のいる家庭。
- 2 仮設トイレの設置については、特に女性や子どもの安全・安心に配慮。
- 3 女性専用洗濯物の干場を確保。
- 4 女性や子どもへの暴力を防止し、心身の健康を守る。
女性や子どものための相談窓口を設置（暴力（DV や性犯罪）の増加）。
- 5 イベントの開催や、誰もが利用できるフリースペースを確保し、心身のリフレッシュやストレス解消を図る。



【研修1】講義：「災害を知り、地域を知り、人を知る！」
～災害リスクを知り、命を守る～

講師：大分大学防災・復興デザイン教育研究センター
防災コーディネーター 板井 幸則 氏

【研修2】講義：「避難所としての公民館の役割」
～避難所を考える～
講師：大分大学防災・復興デザイン教育研究センター
防災コーディネーター 板井 幸則 氏



<参加者感想>

- 実際に災害の現場に足を運び、多くの資料をもとに防災教育に取り組んでいる先生の話はとても心の中に響きました。
- 『自分の命は自分で守る』学習を年1～2回公民館事業にも取り入れて、地域の方々のスキルを高めたいと思いました。
- (避難場運営について)いろいろなケースを想定しての準備が必要であるということが学習となりました。さっそく考えて、持っておこうと思いました。
- 本当に避難所開設の時、自分がどう行動できるか、また研修を受けたいと思います。
- 演習はボリュームがたくさんあり良かったが、結果的には講義となった事が残念。
- 民営化している公民館と行政の協力体制について、どう考えたらよいか、ご教示していただきたいと思います。
- 研修2のまとめの資料がほしい。